

生産性向上現地検討会

〔北信署〕10月3日、管内の飯縄山国有林において、製品生産事業における生産性向上現地検討会を開催しました。この検討会は、地球温暖化対策と併せて木材の持続的供給の観点から、高齢級化が進行している人工林の若返りを図るための効率的な主伐・再造林の実施方法を考えるために開催したものです。

当日は生憎の曇り空でしたが、東信署や富山署の職員をはじめ、東北信地区の素材生産請負事業体、県関係者に加え、関東局上越署の職員など総勢 39 名が参加しました。

当署では、集造材等により発生する端材等の林地残材をバイオマス発電用資源として販売しており、中でも比較的生産性の高い宮澤木材産業株式会社が実施している間伐事業地において、伐倒から集造材、林地残材の搬出に至る作業を視察し、宮澤木材産業専務の宮澤氏から実行上工夫している点や留意点について話を聞きました。参加者からは、林地残材をコンテナに詰めてフォワーダで搬出する工程に関する質問が多く出されました。

午後からは、林地残材等を実際に利用して発電を行っている、長野森林資源利用事業協同組合の「いづなお山の発電所」に会場を移し、バイオマス発電の仕組みや木質燃料の供給実態について説明を受けた後、林地残材や建築廃材等を実際にチップに加工する様子を見学して検討会を終了しました。

生産性は、単位労働量当たりの出材量であることから、地形的条件等で作業効率の向上に限界があるとすれば、林地残材等の有効活用により出材量を増加させることが生産性向上のための一つの手法だと考えます。



林地残材コンテナをフォワーダ運搬